

ろっさいラウンジ

勤労者医療と地域医療の中核病院として、
患者中心の安全で安心な質の高い医療を提供します。

小児科紹介



小児科医師の紹介

小児科副部長

鎌田 彩子 (かまた・あやこ)

平成13年順天堂大学医学部卒業

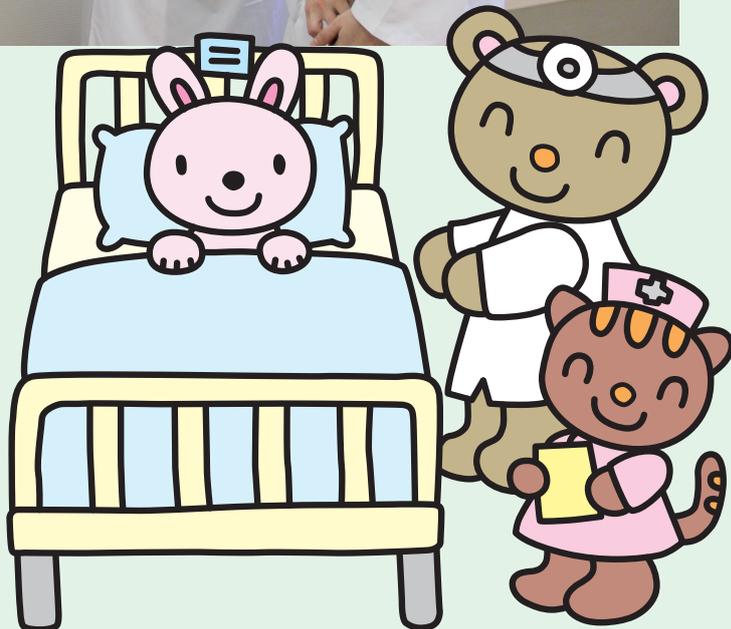
認定医 インфекション・コントロール・ドクター (ICD)

専門医 日本小児科学会

小児科医師

五十嵐 成 (いがらし・なる)

平成19年順天堂大学医学部卒業



A) 特色

平成22年10月より常勤医2名が配属され、平日午前午後診察を行っております。

乳児健診や予防接種も随時行っております(予約制)。

乳児健診では、栄養士からミルクに関する栄養指導を聞くこともできます。

血液検査や画像検査も必要に応じて随時可能ですのでご相談ください。

B) 対象疾患

感染症一般(インフルエンザ、感染性胃腸炎、RSウイルス感染症、マイコプラズマ、溶連菌感染症などなど・・・)

アレルギー疾患、呼吸器疾患、消化器疾患、育児相談など

神経疾患や心疾患など専門性の高い診療が必要な場合は、適時高次医療機関へご紹介いたします。

C) 力を入れていきたいこと

最近、日本で新しい予防接種(ワクチン)が続々と認可されています。ワクチンをすることで大事なお子様を恐ろしい病気から守ってあげるとはとても大切なことです。

同時接種をすることで、効率よくワクチンスケジュールを進めていくこともできます。

対象となる病気の性質、ワクチンの必要性・効果などお気軽にお尋ねください。

ワクチンについて

「ワクチンギャップ」という言葉があります。

残念ながら日本はワクチン後進国です。他の国では当たり前に行っているワクチンができなかったり、定期化されず普及しないことがよくあります。

「任意ワクチンの対象はマイナーな病気でしょうか？」

任意か定期かは国の制度上の区別であり、

★「細菌性髄膜炎」とは？

脳や脊髄の表面をおおっている髄膜に細菌(ばい菌)が入りこんでしまい発症します。

同じ髄膜炎でもウイルスによるものより断然危険といえます。

症状は当初、風邪症状程度のことありますが、時間が経つと全身状態が急速に悪化し、けいれん、意識障害、項部硬直、高熱、嘔吐、頭痛などがみられます。

いまだに死亡率が高く、重篤な後遺症を遺すことも多い疾患です。

病気自体は致命的なものや大流行するものも対象となっています。決して軽くみていいものではありません。

今回は、小児科領域では最も恐ろしい感染症「細菌性髄膜炎」の二大原因菌をターゲットにした新しいワクチンについてご紹介します。



しかし、どんなにベテランな医師でも発症初期に見分けることは難しく、耐性菌の出現によって治療が難渋することもしばしば経験します。

わが国では、年間1,000人の小児が罹患しているとされており、原因菌として一番多いのは**インフルエンザ菌**で55%、次が**肺炎球菌**で約20%です。どちらも健康なお子さんでもノドやハナに保菌していることがある身近なばい菌です。

①ヒブワクチン→

インフルエンザ菌b型 (Hib ヒブ) をターゲットにしたワクチン

もともとは19世紀末のインフルエンザ流行期 スペイン風邪のときに原因菌として考えられたばい菌です。その後、インフルエンザの原因はインフルエンザ「ウイルス」であることが判明しましたが、名前がそのまま残ったため、時々混同される方もいらっしゃいます。

インフルエンザ菌はヘモフィルス・インフルエンザといい、Hiと略します。そしてさらに細かい分類があり、髄膜炎などの怖い感染症は大部分はb型によるものと判明しました。このb型をヘモフィルス・インフルエンザ・タイプbの略でHibといいます。

②小児用肺炎球菌ワクチン→

7種類の肺炎球菌をターゲットにしたワクチン

インフルエンザ菌のときと同様に身近なノドやハナから体内に侵入し、肺炎はもちろんのこと、治りにくく繰り返す中耳炎や菌血症、髄膜炎などの怖い病気に進展します。

肺炎球菌は約90種類のタイプがありますが、わが国で流行っている順の上位7種類をカバーしているワクチンです。

どちらも生後2ヵ月から接種可能で、計4回接種します。乳児期ではないお子さんも、ヒブワクチンは5歳まで、小児用肺炎球菌ワクチンは9歳までのお子さんが対象となります。

これまで全く健康だったお子さんが、突然の発症で命を失ったり、重い後遺症を残してしまふことがあります。これらはワクチンの接種で予防できるものです。ぜひ早めの接種をおすすめします。

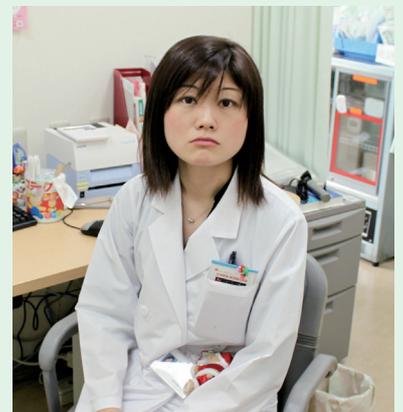
鎌田先生に聞きました

○小児科医になったきっかけは何ですか？

細かい専門分野はあるにせよ、基本的には「こども」のことなら全ての疾患に対応できることに魅力を感じました。また、学生のときの臨床実習で小児科の若い先生たちがとても楽しそうに働いていたのも大きなポイントでした。

○趣味・特技は何ですか？

ピアノ、スポーツ観戦（テニス、バレーボールなど）です。



【受付時間】 午前：8時15分～11時 / 午後：1時～3時

| | | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 |
|----|-----|--------------------------------|------|--------------------------------|------------------------|--------|
| 午前 | 1 診 | ← 診療 → | | | ← 診療 → | |
| | 2 診 | ← 診療 → | | | 10:30～ 予防接種 乳児検診 | ← 診療 → |
| 午後 | 1 診 | ← 診療 → | | | ← 診療 → | |
| | 2 診 | 13:30～15:00 インフルエンザ 予防接種 | 予防接種 | 13:30～15:00 インフルエンザ 予防接種 | 予防接種 | 休診 |

- ・診察は予約なしでも受付しております。予約のお子さんを優先的に診察いたします。
- ・1か月検診以外の乳幼児検診及び予防接種は、小児科でご予約ください。お電話でも予約受付しております。

専門外来のお知らせ

各外来とも完全予約制となっております。ご来院の前にお電話でご予約いただくか、担当医にご相談ください。

☎03-3742-7301

フットケア外来



糖尿病足病変のおそれのある患者さんに対して、爪甲切除・角質除去・足浴等を必要に応じて実施し、足の状態の観察方法、足の清潔・爪切り等の足のセルフケア方法、正しい靴の選択方法についての指導を行います。

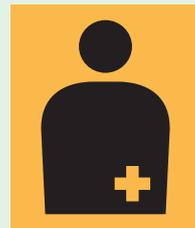
- 日 時：毎週木曜日9時～12時
- 場 所：皮膚科外来
- 担 当：糖尿病看護認定看護師 岩塚晶子
- 対象となる方
当院の糖尿病内分泌内科に通院しており、下記に該当する方
 - 足潰瘍、足趾・下肢切断既往
 - 閉塞性動脈硬化症
 - 糖尿病神経障害

※初回は糖尿病内分泌内科医師の診察が必要です。

ストーマ外来

ストーマの周りの皮膚がかゆい、交換方法はこれで大丈夫？など、ストーマケアに関する様々なご相談に応じています。

- 日 時：毎週木曜日9時～12時
1人につき30分以上
- 場 所：外科外来
- 担 当：皮膚・排泄ケア認定看護師 鈴木理枝
- 対象となる方
消化器ストーマ、尿路ストーマ



助産外来



正常な分娩経過をたどっている妊婦さんを対象に、助産師による妊婦健診と保健指導を行っています。

- 日 時：毎週月曜日9時～15時、
水曜日9時～12時
1人につき約30分
- 場 所：産婦人科外来
- 妊婦健診審査表（助成券）をご利用いただけます。